

今井館ニュース

Imaikan News

第 61 号

2025 年 4 月 30 日発行

主こそ私の力、私の歌、私の救い

杉山 光太郎

創世記 4 章にレメクの息子ユバルが登場します。「彼は琴や笛を奏でるすべての者の先祖となった」とありますから、さしずめオーケストラ奏者の先祖といえることができるでしょう。

創世記 4 章はカインによるアベルの殺害があり、「カインのための復讐が七倍ならレメクのためには七十七倍」と復讐を誓う歌があります。

琴や笛はもともと歌を伴奏するために生まれたと言われます。ユバルが最初に伴奏したのは父の復讐を叫ぶ歌だったのではないかと想像すると少し悲しくなります。ともかく、非常に血生臭い世界に琴や笛を奏でる者たちが生まれ出て来たことになります。

聖書は、詩編はもとより、モーセの歌など、さまざまな歌にあふれています。そして歌と一緒に琴や笛、ラッパ、シンバルなど多くの楽器が登場します。

私は長年オーケストラでヴィオラを演奏してきましたが、オーケストラは社会の縮図であると言われる。社会には人それぞれ、さまざまな仕事があり、役割がある。パウロは教会の人々をたとえて「あなたがたはキリストの体であり一人一人はその部分です」と言いましたが、これに通じるものがあると思います。

オーケストラは弦楽器、管楽器、そして太鼓やシンバルなどの打楽器、さまざまな楽器が同時に音を奏で、一つ一つが影響しあいながら、作曲家が思い描いた一つの世界を作り上げます。

作曲家が cantabile「歌うように」とある奏者に求めると、彼はこの時とばかり心を込めて自らの楽器で「歌い」ます。また、伴奏にまわる者も、歌っている者に懸命に耳を傾けて寄り添います。このように各奏者がそれぞれの「歌」を介してさまざまなやり取りをしながら一つの曲を作り上げていきます。その各奏者の「歌」が集合して聴く者に大きな力で働きかけるのだと思います。



名古屋フィルハーモニー交響楽団を退団するときの演奏会で演奏する杉山氏（中央右）（2021 年 9 月 10 日）

詩編の作者が「主こそ私の力、私の歌。私の救いとなってください」と歌いましたが、これは私たち楽器を奏でる者にとって、深く共感できる言葉です。歌うことは誰にでもできる素朴な行為ですが、また同時に、生きるために必要な力と同じように大切です。

パウロが「愛がなければ、私は騒がしいどら、やかましいシンバル。愛がなければ、無に等しい。」と言いましたが、音楽にとって「歌」は、この「愛」のような存在だと思います。「歌」が無ければ音楽は騒がしい音響と化してしまいます。ここでパウロにひとこと言わせていただければ、オーケストラの中では、どらやシンバルも必要に応じて素晴らしい歌を聞かせてくれるのです。

この歌の持つ力は、音楽家に限らず、私たちが礼拝の度に讃美歌を通して身近に経験していることでもあります。

いつの日か、私たちが天上の合唱とオーケストラで「新しい歌」を歌い奏でることが許されるならば、そのときこそ歌の持つ真の力を知ることができるのではないかと楽しみに思っています。

（すぎやま こうたろう 名古屋聖書研究会）

目 次

表紙・巻頭言	
目次・内村鑑三の言葉	
表紙について・発行趣旨.....2	学校・学寮だより.....12
矢内原資料について（その1）.....3	各地からの報告.....15
2024年度内村鑑三記念キリスト教講演会（東京）.....5	定期集会・特別集会のお知らせ.....16
2024年度内村鑑三記念キリスト教講演会（大阪）.....7	事務局便り.....19
2024年度内村鑑三記念キリスト教講演会（名古屋）.....9	維持会員募集のお知らせ・編集後記.....20
今井館のチェンバロ.....11	

内村鑑三の言葉

「宇宙の占領」

天然の如く自由なれよ、神の子となれよ、又天然の子となれよ.....

選者注：『聖書之研究』89号（1907年7月）、
『内村鑑三全集』15巻、116頁。

「自覚せよ、又自忘せよ、自己の罪を悔いて神に至れよ、又自己の罪を忘れて神の天然に遊べよ」とはじまる「所感」のなかの一文。内村は、宇宙万物も含意して、自然を「天然」と呼んだ。天然は、思想であり、世界精神にして信仰の コスモス 宇宙でもあった。その発露が「詩」であり、「詩人」はまた預言者でもあった。——人は、神の子、天然の子、この天然を自由 ことごと に生きよ、宇宙万物人生 悉く可なり、と。

（選：NPO 法人今井館教友会監事 小林孝吉）



○表紙について

本号の巻頭言は、名古屋聖書研究会の杉山光太郎さんが、長年オーケストラのビオラ奏者として活躍されたご経験から、聖書と音楽、そして、さまざまな楽器の音を合わせるオーケストラが奏でる「歌」の力についてお書き下さった。杉山さんは創世記のユバルについて冒頭で記されていますが、ダビデが豎琴の名手だったことや、ミリアムの歌も私たちの脳裏に浮かびます。杉山さんから、音楽の中で奏でられる「歌」が「愛」なのだとか教えられ、これからまた一層声高く、讃美歌を歌いたと思います。

（CY）

『今井館ニュース』発行趣旨

NPO 法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。

矢内原資料について（その1）

藤田 豊

今井館の資料館としての欠点は資料目録がないことである。もちろん全く無いわけではなく、収蔵図書や雑誌、塚本虎二の資料等は先人の努力で目録化されている。だが全体の目録はなく、個人の書斎で言えば「積ん読」状態であった。2019 年 12 月に資料整理係を拝命し、内村鑑三宛の書簡や写真のデジタル化から着手したが、質・量ともに最も多いのは矢内原忠雄に関する資料である。

当初の整理の対象は、2019 年 3 月に東京大学から返還された中性紙の箱に入った信仰関係の 10 箱程度の資料と、『東京独立新聞』第 64 号（1965 年 8 月 15 日）掲載記事「矢内原忠雄研究資料の蒐集について」に触発されて集まったと思われる資料群だった。後者は今井館に所蔵されていたガラス書棚 3 ケースに入っていた。

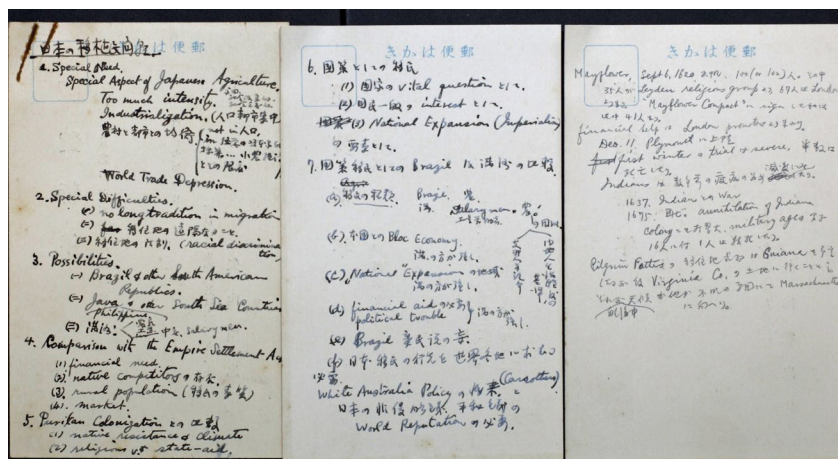
私はこれら 2 系統の矢内原資料の整理を半年くらいで行おうと考えていた。ところが今井館が 2020 年に中根から本駒込に移転する際、屋外の物置から段ボール 25 箱が出現した。夏の暑い日であったが、段ボール箱を開けて、背筋が寒くなる感覚を覚えた。ネズミにかじられた跡のある段ボール箱から、貴重な資料が次々に出てきたからである。

ここで矢内原忠雄の資料の現状を整理しておこう。現在、琉球大学に 1983 年・1998 年に矢内原勝氏が寄贈した 849 冊を整理した

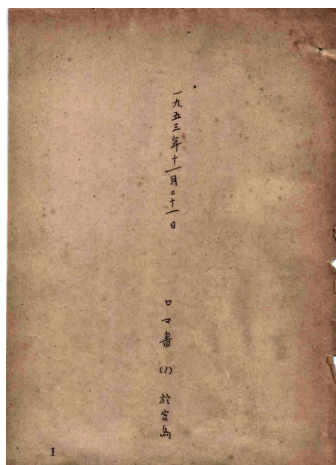
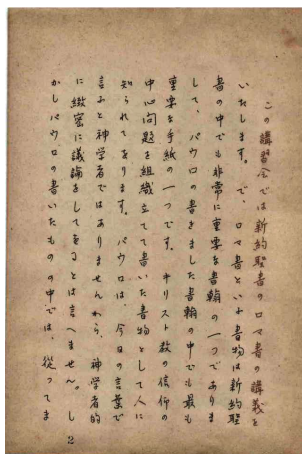
「矢内原忠雄文庫」がある。植民地関係中心の収蔵資料はデジタルアーカイブ化されており、誰でも閲覧可能である。『吉野作造政治史講義』（2016 年）はこのアーカイブからの翻刻である。

二つ目は 2016 年から 2019 年にかけて、矢内原瑤子氏（勝氏夫人）と契氏（勝氏子息）が東京大学に寄贈した資料群である。この資料も資料名までは東京大学のデジタルアーカイブで検索することができる。そのうちの信仰関係の資料が上述のように 2019 年 3 月に今井館に返還されてきたのであった。

そこに物置の大量の資料が出現したのである（以後、これを「今井館資料」と呼ぶ）。段ボールには大まかな内容が書かれた 1995 年 6 月 26 日のラベルが張られていた。聖書講義以外に国際経済学論文、総長時代の資料、写真



移民問題の講演メモ（年代不詳）



杉山民子の清書した矢内原忠雄のロマ書の口述筆記

帳、スクラップブック、手帳、講演用のメモ、個人雑誌の原稿、校正刷り、岩波版全集編集時の資料、伊作氏の『矢内原忠雄伝』執筆時の資料および原稿等、驚くほど広範な内容である。寄贈者は不明だが、内容から推測すると矢内原伊作・勝両氏の関係者であることが推定できる。

覚悟を決めてこの資料の山をどのように整理するか考えた。引っ越し中は資料は倉庫に預けるので整理を進めることはできない。そこでその間、整理の軸になる『矢内原忠雄全集』をすべてデータベース化しておいて(6750件)、移転後に全集収録資料と、「今井館資料」を照合整理することにした。2023年度末にほぼ整理を終え、2023年より矢内原忠雄宛書簡の整理を安彦前副理事長にお願いし(『今井館ニュース』57号)、2024年に書簡一覧表が完成した。

全体は中学時代の文章から最晩年の聖書講義まで、矢内原宛書簡を含め二万件近い資料である。量的に最も多いのは、杉山民子が矢内原の口述筆記を清書した聖書講義である。矢

内原の没後、『土曜学校講義』(1968-1972)、『矢内原忠雄未発表聖書講義』(1984-86)、『矢内原先生の聖書物語』(1988)、『信仰と学問』(1982)、『戦時下松本新年講演集』(1990)が出版された。しかし「今井館資料」に残されている聖書講義のほとんどは未発表である。一例をロマ書で示せば、『嘉信』(1941年～1948年)に発表したものは全集に収録されたが、その他に1950年、1953年～1954年(今井館)、1953

年(名古屋・宮島)の4つの講義が未発表で残されている。矢内原のロマ書に対するまなざしがどのように変化したのか、どのような点が一貫しているのかを考察するだけでも、貴重な研究になるであろう。

資料整理の過程で、今井館が存在を確認すべき資料があることも明らかになってきた。矢内原の日記はある程度全集に収録されたが、すべてではない。残りの日記の所在も確認すべきである。また石河光哉は矢内原の依頼で彼の肖像画を2枚描いた。矢内原の雑誌に白黒写真で紹介されている。しかし、いま何処にあるのか不明である。東京大学に収蔵された資料と「今井館資料」の照合も必要である。

今井館教友会として資料をどのように公開・活用していくのか、真剣に考える責務が我々にはある。

このように矢内原資料の調査を行ってきたが、その中で最も印象に残ったものに、『基督者の信仰』第二版序の問題がある。このことについては次号で詳述したい。

(ふじた ゆたか 今井館教友会常務理事)

2024 年度内村鑑三記念キリスト教講演会（東京）

鷲見 誠一（司会）

2024 年度の「内村鑑三記念キリスト教講演会」は 3 月 23 日（日）午後 2 時から今井館にて開催された。会場参加者・70 人、オンライン参加者・21 人であった。閉会後に開催された「講師を囲む懇談会」には 40 人あまりの方々が参加され、活発な意見が提示された。講師のプロフィールは印刷されて参加者全員に配布されていたので、司会者は講師にそのまま講演にはいつていただいた。ただし、後半の島蘭進氏の時に、司会者は著書リストの中から『国家神道と日本人』（岩波新書）を参加者に必読書としてお薦めした。神道という宗教文化の中に生きているキリスト者として注意が必要だからである。実りの多い講演会でした。

（すみ せいいち 無教会新宿集会会員）



今井館聖書講堂の参加者たち

晩年の内村鑑三に師事した鈴木弼美の生涯

—その光と影

大西洋司



講演する大西氏

基督教独立学園高校の創設者・鈴木弼美先生（以下鈴木と略）は、1899 年、山梨県で古くから続いた甲斐絹問屋の家に誕生し、小学校時代から優等生だった。慶應義塾普通部（今の中学校）の時代には、アインシュタインの相対性理論が「新しい物理学の幕開け」ともてはやされていた。鈴木は「物理学こそ、真理を究める学問」と考え、これを一生の仕事にすべく、旧制第八高等学校（現名古屋大学）を経て 1920 年東京帝国大学物理学科に入学した。この頃、偶然のきっかけから、W. ボーリス（米国生まれの

キリスト教事業家）と知り合い、一時ボーリスの下で働くが、洗礼問題で意見が合わず、1924 年ボーリスは、鈴木を晩年の内村鑑三（1930 年 3 月永眠）に紹介した。この前年、鈴木は、関東大震災で、全焼した日本橋の鈴木商店を、周囲の猛反対を押し切って、債務を払い、小売店の借金を帳消しにして、鈴木商店を閉鎖してしまった。

内村との出会いを通して、「真理はキリスト教にある」事を悟り、「キリスト教の伝道を召命」と考えるようになった。大学卒業を延期して、語学やキリスト教の勉強に 2 年を費やした。内村が学生に僻地伝道を呼びかけたのは、1924 年 5 月だった。後に義兄となる政池仁は最初から小国地方へ出かけ、1929 年より、鈴木もそれに続いた。

鈴木は、「教育を通して、基督教を伝道しよう」と決意し、1933 年に叶水（当時津川村叶水）に引越し、1934 年基督教独立学校を創設した。午前は、授業、午後は労作業で運営資金を捻出しようとするも、上手くいかず、1944 年 6 月には、治安維持法違反嫌疑で、8 ヶ月留置場生活を余儀なくされた。この 8 ヶ月の留置所生活は、鈴木にとっては、社会からはじき出された人と出会った、貴重な機

会だった。戦後、内村門下の多くの人の協力を得て、1948年6月基督教独立学園高等学校を創立。創立期は生徒も少なかったが、政池仁、矢内原忠雄、南原繁、石原兵永、大賀一郎、湯沢健、村山道雄、その他、多くの協力者を得、マスコミでも、基督教に基づく、小人数教育、労農教育などが、全国的に知られるようになり、生徒も全国から集まるようになった。

1978年、サッカーに熱中するあまり、授業や作業がおろそかにする生徒が出るようになると、生徒や他の教職員の意見に耳を傾けず、球技を禁止してしまった。この頃、職員の信仰をも批判するようになり、そのために学園を去らざるを得なかった方もおられた。その頂点は、長年、鈴木校長を支えてきた榎本忠雄教頭先生の告別式での式辞(1980年4月)で、忠雄先生の信仰を批判した事だった。

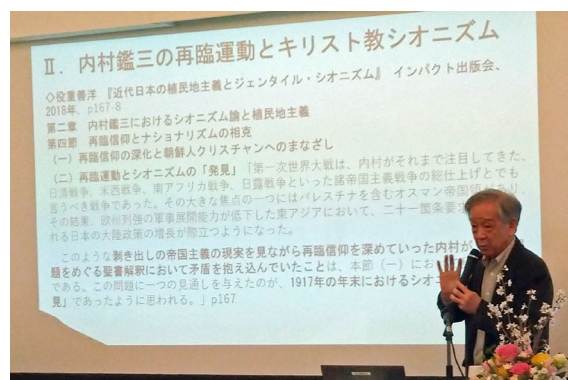
鈴木商店閉鎖の時にも見られた、ある意味、独断的自己主張の強さは、素封家の跡取り息子に無意識の内に背負わされた精神的背景が、あったのではないかと推測された。鈴木先生の著作や講演は膨大で、未だ未公開のものも多く、全体像を把握できていない。それは、次の世代に方々に委ねたい。(おおにし ようじ 新潟聖書研究会・前基督教独立学園理事長・医師)

再臨運動前後の内村鑑三と国家

島 蘭 進

『萬朝報』を去ってからの内村鑑三は、現実の政治状況に対して積極的に発言することが少なくなった。その一方で、短い期間とはいえ、キリストの再臨を待望するというとりあえずは政治性がないように見える信仰のあり方に積極的にコミットした。これをどう捉えるかは、無教会キリスト教と国家の関係を考える上で重要な課題となるだろう。

2022年10月に始まるイスラエルのガザ侵攻を世界の世論に反して米国がサポートしてきたことの背後にキリスト教シオニズムの影響があることが指摘されている。米国はもちろんだが、日本の福音派やキリスト教系新宗教においてもそうした動向が見てとれる。



講演する島蘭氏

そもそもシオニズムはナショナリズムとの関係で捉えられることが多く、その背後にある宗教性についてあまり注目されてこなかったが、ユダヤ教とキリスト教の宗教的シオニズムがあらためて注目されるようになってきている。そして、それは西洋の植民地主義とも関わりが深いことは見逃せない。近代のキリスト教の草の根運動において根強い千年王国主義についても、植民地主義との関係において見直す必要があるだろう。

日本が植民地主義の姿勢を強めていく日清戦争から満州事変に至る時期に、日本のキリスト教が再臨運動や福音主義的な動向によってどのような変容を被ったかという問題がある。中田重治が日本の福音主義に及ぼした影響は大きいが、内村鑑三と無教会の運動はこうした日本の草の根キリスト教の運動とどのような関係にあったのか。

内村は朝鮮におけるキリスト教徒の動向に関心を持っていた。ただ、日本の植民地主義を批判することはあまりなかった。再臨運動の時期、パレスチナ人が植民地主義によって苦しめられるという認識もなかったようだ。朝鮮の3.1独立運動が近い時期に、内村は再臨運動から撤退した。しかし、「無教会」という超俗的な場所を持つことで、植民地主義に深くコミットすることも免れた。このような脱政治的なポジションが無教会関係者が戦後に大きな知的影響力を持つことを準備したとも言える。

(しまぞの すすむ 上智大学グリーンフケア
研究所客員所員・東京大学名誉教授)

2024 年度 内村鑑三記念キリスト教講演会（大阪）

津崎 哲雄

2025 年 3 月 20 日（木・休日）午後 2 時から大阪女学院の南東端に在る大阪クリスチャンセンター2 階多目的ホールにおいて、武田芳彦氏（みかげ聖書集会）による司会のもと、二人の講師、雑賀光宏氏（みかげ聖書集会）と月本昭男氏（経堂聖書会）が講壇に立たれた。福岡市・岡山市からの出席者を含め三十六人が集い、雑賀氏は信仰/エクレシアと社会（労働）問題の切り結ぶ現場に神の導きが実在したことが力強く証しさ



武田芳彦氏、月本昭男氏、雑賀光宏氏（左から）

れました。月本氏は旧新約聖書の行間に目を凝らし、書かれていないこと、あるいは書きえなかった事実を想像しつつ聖書の記事の全体像を理解することの大切さを 5 つの著名な出来事/場面の西洋画スライドを通して解説していただき、聖書の学び方の多様性に出席者一同おおいに刺戟を受けた。閉会後に予定されていた質疑応答は時間の制約で取りやめになったものの、出席者一同学ぶところ多く、感謝のうちに散じた。

（つざき てつお 淀聖書集会）

主の導きに感謝

雑賀 光宏

20 才の頃高橋守雄さんから聖書を学び、生活の中での出来事を通して主に導かれ信仰の歩みを続けることができましたので、私が体験した主の導きについて次の 11 の出来事から証しさせていただきました。(1) 婚約式にあたり高橋さんから「君は結婚してどういう生活をするのか」との課題が与えられました。1 年後「聖書を家庭生活の中心に置くこと」ということが分かり、結婚式が許されました。(2)高橋守雄さんの師、藤田若雄先生から和歌山聖書集会で、テサロニケ I 4・11～12 の講義を受け、生活姿勢の原点になりました。(3)1965 年、藤田若雄先生の夏季聖書講習会に初参加し創世記の講義で、捕囚下の中で創世記を生み出した

構想力の偉大さを学びました。(4)1963 年の三井三池炭鉱の炭塵爆発による落盤事故から数年後、落盤事故はなぜ無くならないかと尋ねたら、藤田先生は「経営者がやるべきことをしていないからだ」と即答されました。職務に取り組む姿勢を教えられました。(5)さらに「君は、労務という体制の中で、内側から潔める役割をなささい」と教えられました。(6)先輩の転勤により、先輩と学んでいた高卒の若い人を頼まれ、我が家で家庭集会を持つことになりました。僅か二人でも「集会は公のもの」ということを教えられました。(7)親会社から関係会社に出向した社員の業務姿勢について「勤務場所にこだわりなく、質的平等の立場で仕事をする」ことを大切にしました。(8)出向した地・佐賀県で、自衛隊の OB 採用の縁

で、自衛隊西部方面大演習を見学しました。やはり自衛隊は軍隊だと実感しました。転勤地で地方の実情を学びました。(9)2015年、信仰の師高橋守雄さんの追悼集を編集する過程で、構成・文章の選択に苦慮していた時、スーと方向性が与えられました。聖霊の導きを感じました。(10)1970年から数年間は、教育実践者・斎藤喜博氏の本をむさぼり読み、職務に対する姿勢について多くを学びました。「生徒ができないのは、教え方がわるいのだ」、教育の神髄を学びました。(11)1972年から国道・斑鳩バイパス建設反対運動に43年間関わりました。現在、法隆寺を中心とした、斑鳩の里観光ボランティア活動を22年間続けています。このようにキリストを信じる信仰は社会生活での具体的な営みにおいて生きて働くのです。

(さいが みつひろ みかげ聖書集会)

行間に目を凝らして聖書を読む

月本 昭男

聖書の記述には省略が少なくない。たとえば、ヨハネ福音書8章6節によれば、イエスは指で地面に何か書いておられた。だが、何という言葉を書かれたか、明らかにされない。そこで、読者は想像するほかはない。だが、そうすることによって読者もまた物語に参加するのである。旧約聖書の物語にも同じことが言いえよう。

エデンの園の物語で、エバは「善悪を知る木」の実を取って、夫アダムと共に食べてしまう。そのとき、傍らにいたアダムが何を考え、何をしていたのか、物語は語ってくれない。だが、画家たちはそのときのアダムの姿を様々に想像した。驚くべきはシスティーナ礼拝堂の天井画である。ミケランジェロはエバの頭越しに「善悪を知る木」に手を伸ばすアダムの姿を描いている。

創世記22章「イサク献供」に母サラは登場しない。21章では、息子イサクのことを慮ったサラはハガルとイシュマエルの追放をアブラハムに願っている。23章はサラの死と埋葬は報告される。物語を伝えた人たちはサラのことを意識していたのである。だが、22章に彼女を登場させなかった（させえなかった）。それゆえ、はじめイサク献供の場面を描いた古典的画家たちもサラを登場させることはない。ところが、シャガールはこの場面に、左遠景の木蔭に胸元に指をからませ、眼を大きく開いて、気も狂わんばかりの女性を、右遠景には十字架を背負うイエスと共に母子像を描き込んだ。

サムエル記下11章では、ダビデの王宮に召し抱えられたバト・シェバについて、彼女は夫ウリヤの死を悼んだ、という以外に彼女の心情は記されず、画家たちは彼女を魅力溢れる妖艶な女性として描いている。ところが、レンブラントはダビデからの手紙を手にし、悲しみと愁いをたたえたバト・シェバの姿を伝えてくれる。

母親が登場しないという点では、「放蕩息子の譬え」(ルカ15章)も同様である。レンブラントが最晩年に残した「放蕩息子の帰還」では、画家がそうであったように、視力を失った老父が息子を迎える。息子の背に伸ばした右手は女性の、左手は男性の手として描いたという。だが、目を凝らすと、左奥の暗闇のなかに二人を見つめる女性が微かに浮かびあがる。

聖書の物語には省略が多い。だが、すぐれた画家たちの作品を傍らに、想像力を働かせながら物語を読むことによって、物語の奥に隠された意外な事態に気づかされ、聖書を読む楽しみが増す。

(つきもと あきお 経堂聖書会)

2024 年度内村鑑三記念キリスト教講演会(名古屋)

浪川幸彦(司会)

2024 年度の内村鑑三記念キリスト教講演会は 2025 年 3 月 23 日名古屋市市政資料館において、早咲きの桜の下、東京からの参加を含め、38 名の参加者を得て開催された。本年は名古屋で半世紀にわたり福音の伝道にご尽力されている木村ハンネローレ氏をお招きして、夫君尚文氏(一昨年末帰天)との歩みと、福音の歴史における内村鑑三の言葉の持つ意義とについてお話を伺った。主の導きに従い、真実の信仰を求め続けた木村様ご夫妻の歩みは、内村鑑三のそれに深く通じるもので、その歩みの証は聴く者に深い感動を与えた。そしてその中で木村氏が得た内村鑑三の、すなわち無教会の福音とは、私たち一人一人が「キリスト」を、「十字架に付けられ、生きておられる神の子である、主イエス・キリスト」を、信じて生きぬくことと教えられ、感謝とともに大きな力を与えられた。

以下は講演時配布資料(講演者による)と、講演直後速やかに作成された正確な文字起こし講演記録(協力者による)を元にしたまとめである。これらを読むと当日の講演の感動がまざまざと蘇ってくる。木村氏はこの日まさに内村鑑三と同じく「イエス・キリストの福音」そのものを語られた。ここではそのほんの一部をお伝えすることしかできない。

講演Ⅰ「内村鑑三との出会いと、日本での歩み」

「二人または三人が私の名によって集まる所には、私もその中にいる」(マタイ 18:20)。この「友なるイエス」の言葉を歌詞とする讃美歌が、木村ハンネローレ氏が尚文氏と共に歌われた最後(この世で)の曲であった。お二人の福音伝道の間「言学寮」においてのことである。そこに至る歩みを振り返る。

フィリポは「来て見なさい」とナタナエルをイエスの元に導いた(ヨハネ 1:46。本講演会冒頭に朗読された聖書箇所)。

ハンネローレ氏は三つの「村」によってイエス・キリストの道に導かれた。氏は故郷バイエルンの「村」ヴァンバッハの教会で堅信礼を受け、イエスを「救い主」(キリスト)として、教会に属する者となった。その時与えられた聖書の言葉(第 1 コリント 6:19-20)に導かれ、エルランゲン大学で神学を学び始める。その大学でハンネローレ氏は木村尚文氏に出会い、生涯の伴侶として共に日本に行くべく導かれる。



1971 年木村尚文氏とハンネローレ氏の
結婚記念写真

当初氏は、木村氏が無教会キリスト信徒であることを知らなかった。ハンネローレ氏は、内「村」鑑三の「余は如何にして基督信徒となりし乎」のドイツ語訳に出会って共感し、しかも木村尚文氏が無教会であったことも分かって、学位論文『無教会、福音史の継続』を書く。氏は内村自身の言葉によって内村へと導かれた。

来日後ハンネローレ氏は、大学でドイツ語講師としてキリスト教を含めて教える傍ら、中山博一先生など無教会の人々との親交を深める。しかしここで、尚文氏親族の会社倒産に起因する大きな困難が起こる。その困難との戦いと再出発の歩みの中で、お二人は新しい福音伝道の道へと導かれる。すなわち雑誌“*Leteroj*”（エスペラント語で「手紙」の意味）の創刊と、それを契機とする若い人たちとの聖書の学びの場「言学寮」の経営である。

これは尚文氏によるキリスト教の出版社の設立として実を結び、ハンネローレ氏により内村鑑三と無教会を西欧および若い人たちに紹介する書物が出版された（『内村鑑三 日本の侍から国際的なキリスト者へ』等）。ここで氏は内村の言葉の特質を、「矢言葉（独語で *Pfeilworte*）」の語で表現している。

講演 II 「内村鑑三の言葉が持つ、福音の歴史における意義」

この講演は大学 1 学期の講義を 1 時間で話されたようなもので、要約すらできない。ここでは「内村は侍である」との話題に沿って、報告者なりのまとめを試みる。

「侍（さむらい）」とは、木村氏によれば「大切なもののために生涯をかけて戦い続ける人」のことである（*vivere est militare*、生きることは戦うこと）。内村鑑三とその先達パウロは福音のために「赦された罪人」として、生涯を捧げた。その報酬は「永遠の命」である。これは新渡戸稲造の「武士道」とは



講演する木村ハンネローレ氏

異なる、新しい「武士道」の提示であると思う。

その「侍」としての内村は、札幌教会で「キリスト教」に出会い、アマースト大学で「（十字架の）キリスト」に出会った（回心）。こののち不敬事件で厳しい戦いに巻き込まれるが、最終的に「聖書研究会」を主宰して「聖書之研究」を発刊し、「無教会」を確立する。ここで木村ハンネローレ氏は強調する、「無教会」は内村が机上で想到したものではなく、彼自身が無教会に「なった」、より正確には、「なるように導かれた」と。

この内村の歩みは、前半に要約した木村夫妻のそれと深く重なる。そして木村ハンネローレ氏は、これが福音史の中に生きることであって、私たちも続けと呼びかけられている。

木村氏はもう一つ提案をされた。「無教会」の語は西欧語に訳すのが難しい。むしろ不可能である。日本の「寿司」はそのまま“*sushi*”で今や世界に通用する。同様に「無教会」もそのまま“*mukyokai*”という神学用語としてはどうか？と。賛成である。

（なみかわ ゆきひこ 名古屋聖書研究会）

今井館のチェンバロ

宮崎 文彦

無教会研修所で行う講演会の下見のため、初めて新築移転開館した今井館聖書講堂を訪れたとき、アマチュアながら声楽をやっている私としては、つい響きを確かめたい誘惑にかられました。そして、その豊かな響きに魅了されました。知人のプロの演奏家にも音響の良さを確認してもらい、まもなく今井館聖書講堂の演奏会会場としての貸出が始まりました。

お声がけしたのは、「古楽」と呼ばれるジャンルの方々。バッハをはじめとして、当時使われていた楽器を用いて演奏する方々で、日本にも世界的な水準の方が多くおられます。こうした楽器は、現代の楽器と比べて性能が高くないため、大きな音を出すことはできません。その代わり、ガット弦と呼ばれる羊の腸を用いた弦の響きなど、豊かで柔らかな魅力をもっており、今井館聖書講堂のような小さめのサイズの会場にぴったりです。

同じような規模で響きもいいホールが新宿に近いところにあったのですが、そこがある事情から使えなくなっていたこともあり、今井館聖書講堂には需要があると考えました。すると予想以上の反響で、今井館聖書講堂は今やすっかり予約困難な会場とまでなりました。

そのようななかで同じアマチュアの音楽仲間ヴァイオリンやチェロを弾かれる高藤朋子さんから、著名なチェンバロ製作家であられる久保田彰さんの楽器を購入したいけれども、今井館に置かせていただけないか、との打診をいただきました。実は久保田さんも今井館聖書講堂の評判は耳にしておられたようで、このお話を大変喜ばれ、2024年5月の連休明けに初めて来館、収納場所や運搬方法なども検討されました。

楽器の所有者はあくまで高藤さんで、今井館はお預かりして演奏会で利用される場合に仲介するのみとす



蓋の内側に書かれたラテン語 SIC TRANSIT GLORIA MVNDE (左側) は、「栄光や名声は移りゆく」の意、絵画 (右側) は、クロード・ロラン作《ニンフとサテュロスの踊る風景》

るというのが事前の了解でしたが、高価な楽器ですし、懸念もありました。しかしながら、高藤さんはすでにご自身の楽器を貸し出すことをしておられ、保険などについてもよくご存じでしたので、話はスムーズに進みました。

そして 2024 年の年末、著名なチェンバロ演奏家西山まりえさんにお披露目の演奏会をしていただくことになりましたが、2日間の日程のチケットはあっという間に完売となり、大好評のうちに初回の演奏会を終えました。年明けからはさっそく演奏会でチェンバロの利用を希望される方にお使いいただき、とても高い評判を得ています。

演奏会などは今井館教友会としての本来的な活動ではないものと思いますが、演奏会にお越しいただく方々には、内村鑑三や無教会のこと、教友会の活動を知っていただくとても良い機会になっております。今後も可能な範囲内で今井館聖書講堂のこのような利用を続けていくことが出来れば有難いことと思っています。

(みやざき ふみひこ 無教会自由が丘集會)

学園・学寮だより

愛農学園

中国で有機農業に関係する人々がブルム学園の元校長・洪淳明氏の繋がりの中で「神農論壇」を作り、日本の愛農会、韓国の正農会と交わりを持つようになりました。そして初めての韓中日平和交流会が愛知県と愛農を会場に12月17～21日に行われ、愛農高校のクリスマス礼拝にも参加されました。生徒は「ハレルヤ」の合唱などで歓迎しました。



韓中日平和交流会と共にクリスマス礼拝

有機農業を通して中国との新しい繋がりや平和作りに、これからの愛農の方向が示唆されました。

ブルム農業技術高校生10名が職員2名と共に1月12～15日に来校しました。職員生徒有志が準備し、相互理解と交流の時間を持ちました。

生徒会の主導で自然エネルギーを愛農に取り入れるクラウドファンディングを12月に立ち上げました。太陽熱温水器4台とその設置費用、250万円の目標が1月末の締切に達成できました。166人の支援者の中にははじめて愛農を知って応援くださる方々が少なからずいました。今後の支援の在り方としてクラウドファンディングの力を感しました。

ブータン人と関係する日本の方が2年連続で愛農高校を訪問されました。ブータンに農業工業高等学校を設立したいとの思いで、愛農高校に協力を要請しています。チベット仏教国であり、有機農業を国を挙げて推進するブータンの教育のため愛農高校はできる限りの支援協力を行っていききたいと思います。

(校長 村上 守行)

愛真高校

年度末、決まり・心得などを話し合う全体会で、今年度時間をかけて話し合った議題の一つは「誓約書」の文言でした。これは生徒が入学にあたってする約束の言葉ですから、みんなで話し合って決める主旨のものではありません。生徒たちはそれを十分承知の上で、今までの誓約書の改定版を新提案として提出したのです。入学生にとって少しでも分かりやすい言葉で、本校の生活の本質を理解し決意を持って入学してほしいとの思いからでした。生徒、教職員が述べた意見の一つ一つは、本校の生活の中心とは何かを考えさせる示唆に富んだ意見だったと思います。最終的な結論として、新提案を参考にして新しい誓約書の文言を検討することになりました。



卒業音楽会の全校合唱

卒業礼拝前日の卒業音楽会は、開校以来、初めて体育館で行いました。建物の響きを是非使いたいとの声が多かったからです。音楽会を説明する何よりの言葉がアンケートに書かれていたので、その一部をそのまま引用させていただきます。「愛真生の歌声はうまいとか上手とかで感想をのべられるものではないといつも思う」。「24時間日々の生活を共にし、時にぶつかり、

時に共に涙したり、笑ったり、とびあがるほどの喜びを感じたりする」。「お互いの気持ちに寄りそったり、それができない時の苦しさも知っている。そんな愛真生だからこそ、友の声を聴き、自分の声を聴き、いっしょにつくっていく音楽が生まれている。そんな風に思えてなりません」。

「選曲も、また作詞作曲された曲も多様だけれど、全てを通じてそのことが伝わってきました。加えてイエスさまのゆるしと愛が根底に流れている。だからヘンデルの『メサイヤ』も、フラワーカンパニーズの『深夜高速』も、ゆるされて生きる感謝と喜びが讃美として聴こえるようでした」。

(校長 栗栖 達郎)

独立学園



75期さよなら音楽会

近年は暖冬が多く、今年もそうかと思いきや今年は積雪が4メートルにも届きそうなほどの大雪となった。文字通り豪雪地帯を経験する冬となったが、ともかく3月の初めまで、これでもかこれでもかというくらいに雪が降り続いた。壁のように切り立った雪の壁には視界を狭められた。もうこれで日々の除雪はしなくてもよくなったと感じられる3月中旬、厳しい冬を乗り切った思いがゆっくりと湧いてきた。そんな中、3月13日、14日にさよなら音楽会と7

5期生の卒業式を実施いたしました。とりわけコーラスが好きなクラスで、歌詞の意味を深くかみしめつつ一心に歌う生徒のハーモニーの響きは、祈りにも似たものを感じます。そしてそれは聞く者に感動を呼び起こします。卒業式では22人の生徒が一人一人卒業所感を述べて旅立っていきました。3年前の入学時に座っていたと同じ所に共に座っての卒業式。「自分を見つめる」ことを大切にする中で、各自はなぜ現在の自分はこの自分なのかの理由、原因を問うことを避けられません。その営みは自分の縦軸の遡りとなり、現在の横軸の人間関係の中で新たな自分を生きるチャレンジを生み出します。そのような3年間の営みから獲得された言葉は、生きた言葉となって一人一人の生徒から語られました。独立学園で言うところの「卒業(commencement 始まり)」にふさわしい時となりました。

(校長 後藤 正寛)

登戸学寮

卒寮式の後、入寮式の前、鶯の囀りで朝がくる枳形山は桜が咲き始め春を告げています。四人を社会に、四人を新たな挑戦に送り出し、67年の歳月を刻んだ学寮は十二人の若者を迎える準備に過ごしています。創設時に尽力くださった坂田佑先生が一期生に呼びかけました。「アララテ山上の方舟から新世界が展開した如く、登戸丘上の方舟即ち学寮から、日本を滅亡から救い出す福音の戦士が続出することを祈る」。それに呼応するかの如く、内村鑑三の初夢に触発され大陸伝道を志した一昨年の呉得榮氏(九十歳)の証に続き、昨年秋の第四回黒崎幸吉記念賞において月刊誌「マラナタ」(現在125号)を刊行しつつ独立伝道に従事する香西信氏(1987年入寮)は黙示録を説き証し、聴衆一同福音を仰ぎみました。女子寮併設し15年が経ちますが、教員として一年生から六年生までの担任を所謂「コンプリート」した宮崎聡子氏は小学校教育の現場をヴィジョンとともに報告くださり、良きロールモデルを示されました。この偽りとフェイクニュース



第4回黒崎賞授賞式・講演会と
ホームカミングデー

に溺れる現代にあって、「天地は過ぎ去りゆく、しかしわたしの言葉は過ぎ去ることはない」(Mat.24:35)と語るナザレのイエスの言葉と働きが歴史のただなかで屹立しています。若い感受性の鋭い時に真理を愛することを心に刻まれた若者は幸いであると思います。この獰猛な時代に負けず、希望のうちに生涯を歩むことができます。「われらは真理に背いて何も力ないが、真理の為に力ある。というのもわれらは弱い時に喜ぶからである」(2Cor.13:8)。その都度最善の行為を選択しつつ新たな日々を喜びのなかに迎えようとしています。

(寮長 千葉 恵)

春風学寮

春風学寮では、昨年度より環境保護を学びの目標の一つに掲げている。その一環として2月2日に、「脱炭素まちづくり」ワークショップというものを開催した。これは、一般社団法人「全国ご当地エネルギー協会」が主催するもので、内容は以下の通り。先ずファシリテーターが、様々なデータを基に地球温暖化の現況を30分ほど解説する。その後で、みんなで協力して町の炭素排出量を減らしていくロールプレイングゲームを行い、ゲームを通じて脱炭素社会を作っていくためにはどうすればよいのか、それを阻んでいるものが何であるかを体験的に習得していくというものだ。

このゲームは非常によくできているので少し説明しよう。プレイヤーは、様々な企業・役所・公共事業、公益法人などの責任者の役割を割り当てられ、それぞれの立場から自分の持ち札（資金・人材など）を利用して、他のプレイヤーと交渉しつつ、町全体の排出量削減目標を達成していく。そのプロセスで参加者の特徴が現れ、様々な事態が生じる、というのがこのゲームの基本だ。

うちの寮では次のような事態が生じた。初めは多くのプレイヤーが自分の団体の利益を優先して資金や人材を出し渋ったため、なかなか排出量を削減できなかった。しかし、終了時間が近づいて来ると、すべてのプレイヤーが自分の団体の利益を犠牲にしてでも、排出量を削減しようとした。こうしてゲーム終了間際には、町全体が理想の社会主義国のように公益を優先する社会になっていった。ゲームが終わってどのくらい排出量が削減できたかをPCがはじき出し、削減目標が達成されていたことがわかると、全員が立ち上がり、拍車喝采して喜びを分かち合った。

現実においてもこうなるであろうか。危機が本当に差し迫ってくれば、現実においても同じようなことが起こるであろう。事実過去の緊急事態においてしばしば人間は自身の利害を超えて協力し合ってきた。しかし温暖化の問題は、危機が差し迫ってきたときには、point of no returnを超えており、もう手遅れであるということだ。危機が差し迫る前に、社会のそれぞれの団体が自身の利益を犠牲にする必要がある。今回のワークショップを通じて寮生たちはそのことを体感したに違いない。

(寮長 小舘 美彦)



「脱炭素まちづくり」ワークショップ

第39回内村鑑三研究セミナーのご案内

主催：『内村鑑三研究』編集委員会

日時：2025年6月14日（土曜日）14時～17時

開催方法：ハイブリッド方式（対面とズームとの併用）

会場：立教大学池袋キャンパス 12号館 地下1階 第一・第二会議室

発表：「内村の再臨信仰と大正デモクラシー」

古賀敬太（大阪国際大学名誉教授）

「内村鑑三晩年の「哲学熱」と真理の楕円説——福音の析出をめぐる」

千葉 恵（北海道大学名誉教授・登戸学寮寮長）

司会：岩野祐介（本誌編集委員）

資料・通信費 1000円

ズームでのご参加の方は6月12日までにメール（ahl17298@kwansei.ac.jp）で、氏名・TEL・メールアドレスを明記の上、岩野祐介委員までお申し込みください。折り返し当日のログイン URL と資料・通信費振込口座の情報を送りします。対面での参加の方は申し込み不要です。会場に直接お越しください。詳しくは本号の『今井館ニュース』（第61号）に同封のチラシをご参照ください。

内村鑑三スカラーシップのご案内

米国アーモスト大学が2年毎に、日本人学生1名に対して、内村鑑三スカラーシップを出しています。2025年はその募集年に当たり、7月初旬に申請受付が始まります。応募資格は内村鑑三の生涯と業績に理解と共感を持つ者で、2025年4月1日時点で、日本の4年制大学の3年次、4年次生または卒業生であること、英語能力はTOEFL (Paper-based 600点以上、Computer-based 250点以上、Internet-based 100点以上)が必要です。合格者は3年生に編入し、2026年秋から2028年春までの2年間、留学します。近年は応募の学生・院生がきわめて少なく、前回の2年前は誰も派遣できなかったそうです。皆様のご家族、お知り合いに是非ご紹介下さい。詳細は以下の URL あるいは同志社大学のホームページから、国際課を開いて下さい。

https://international.doshisha.ac.jp/oia/scholarship/uchimura_scholarship.html

各地からの報告

■北海道

○札幌独立キリスト教会

2024年5月に大友浩氏が教会主管者を退任、井上が新しく主管者に就任しました。

■北陸

○金沢畛田聖書集会

3月16日：広村暁は、ルカによる福音書22章54～62節「ペトロ、イエスを知らないと言う」について話した。「この聖書の箇所は人間的な信念のもろさ・弱さを私たちに示して胸痛む情景である。以前ラジオ朗読の時間>で偶然に聴いたチェーホフの短編小説『学生』という物語を思い出した。冬のモスクワの夜、神学生は公園の一隅でたき火をしている所を通りかかり、福音書でペトロが三度イエスを否んだとき鶏が鳴き、烈しく泣いたことを人々に語り、想う。そんな内容だった。またジョン・バニアン『天路歷程』は、「信仰生活を歩んできた者が突然後戻りすることがある」と、人生途上での挫折を記している。アウグスチヌス『告白』を訳した山田晶氏は解説で「ペラギウス論争」における自由意志か恩恵かの論争について、「自身の弱さを知らない人にはアウグス

チヌスの言わんとすることがわからない。アウグスチヌスの言いたいことはただ一つ「自分のみじめさを知れ」と云うことである」と書いておられる。自分のみじめさに泣いたペトロは恩恵により赦され、心砕かれ、生きることができた」。

場所：金沢勤労者プラザ（金沢市北安江3-2-20）

連絡先：山下士郎

■静岡

○2024年 静岡クリスマス講演会

12月1日、会場に足を運べばお目当ての富士山は真っ白に雪化粧した姿でお出迎え。「やるだけの準備をしたし、これから全ては神様にお任せしよう...」、そのような気持ちが備えられて嬉しかった。当日は清水聖書集会員が1/3、私が清水キリスト者共同墓地管理会理事である関係で交流のある教会員と友人を併せ1/3、私の姉弟夫婦と甥が1/3、更に東京から伝道会運営委員多田様が駆けつけて下さり、計33名が参集。開演前、集会員全員が講演会タイトル掲示を始め、花器設置や資料、飲物の準備。休憩時間に入れば飲物や菓子、終了時にはクッキー小袋を手渡され...と初めから終わりまで心を配られ感謝。（西澤正文記）

■近畿

○232 回関西合同聖書集会

日時：2025 年 4 月 29 日（火・休）

司会：堀井昭子

講師：鵜田宗一「私とキリスト教」

大川四郎 出エジプト記

午後 昼食を共にし懇談会をしました。

■九州

○福岡市民クリスマス

12 月 9 日（月）夜に福岡市の超教派教会との共催で、吉村孝雄氏（徳島集会）に導かれて福音歌手になった全盲の北田康広氏夫妻ほかを迎えて福岡市民クリスマスを開催しました。福岡市民会館大ホールに迎えた数百人の皆さんと共にイエスのご降誕を賛美しました（YouTube で配信中）。

○福岡聖書研究会・特別集会

・2 月 16 日（日）に矢田部千佳子さん（テコア聖書集会）を迎えて、内村鑑三がその一生をかけて証した神の愛、神の義について学びました。ランチを共にして良い交わりの時をもちました。

・4 月 20 日（日）に横川知親先生夫妻とご子息（日比聖書教会）を迎えて、「主は甦られた＝マタイ 28:1-6」の講話でイースターを祝いました。

・『福岡聖書研究会だより 48 号』12 月に発行

○別府聖書研究会主催・クリスマス集会

12 月 22 日（日）梅木敏子氏が「最も重要な掟」と題し、マルコ 12:28-34 により、全てをもって神を信じることが課題と説き、中村陽一氏が創世記 1:26~31、ローマ 3:22、フィリピ 2:6-11 により、アダムは神に不従順で死を招き、イエスは神に従順で本当の命に繋がった。イエスの従順と真実によって私達は救われた、と語りました。

○那覇聖書研究会

3 月 6 日に記念誌作成会議をもちました。

4 月 20 日のイースターは賛美礼拝をしました。

定期集会・地域別特別集会等案内

●山形

○山形聖書集会 代表 白崎良二

聖日集会は原則毎月第 2・第 4 日曜、10~12 時

夏期・冬期（8 月・1~3 月）は休会

会場：遊学館、山形テルサ、文翔館

聖書講話：会員順番に担当

○米沢聖書集会

日時：毎月奇数日曜日、10 時~12 時半

場所：会員の個人宅（米沢市内）

聖書講義：助川暢（基督教独立学園高等学校元校長）

感話：毎回会員から 1 人、15 分程度

特別集会などには外部講師を招く

連絡先：富樫徹

●茨城

○水戸無教会聖書集会

月例集会 10:30~12:00

第 2 日曜（わたしが命のパン 星野光利）

第 4 日曜（ヨハネ黙示録 菊池信生）

8 月は夏休みのため休会

会場：南町コミュニティホール

バス停：南町 2 丁目下車、徒歩 3 分。参加費 300 円

主催・連絡先：水戸無教会聖書集会

星野光利

●栃木

○とちぎ聖書研究会

テキスト：白井きく著『ブルトマンと共に読む ヨハネ福音書』（白順社）

会場：栃木県勤労者福祉センター

（宇都宮市中戸祭町 821）

時間：午前 10 時 30 分~正午

通常は 2 回/月開催

会費：一般 1000 円、学生 500 円

開催日等は村松梅太郎までご連絡ください。

●千葉

○千葉聖書集会

毎月第 3 日曜日 午前 10 時~12 時

千葉市生涯学習センターで主日礼拝。新約聖書を学んでいます。出席者 15,6 名。

毎月第 1 日曜日 午後 1 時~3 時半。

会員の私宅で旧約聖書を読んでいます。

連絡先：広瀬敏行

○逆井聖書集会

毎月第 2 土曜日 午前 10:15~11:45

その後全員参加の談話会 12:30 頃まで。

会場：松戸友の会友の家

隔月ごとにエレミヤ書、ヨハネ福音書を学んでいます。

出席者 15~20 名

連絡先：西永頌

●東京

○高円寺東集会

礼拝：第 2 と第 4 日曜日の 11 時から 1 時頃まで。「ガラテヤ書」（元高円寺東教会牧師小西芳之助）または「黙示録」（石館守三）の講解説教の録音テープを聞いて礼拝。

会場：今井館第 1 集会室（ズーム併用）

会費：1000 円。昼食を共に致します。8 月は休み。
連絡先：山口周三

○無教会自由が丘集会

毎月第 3 日曜日、10 時～12 時、対面とオンラインのハイブリッドにて開催しております。

2025 年度は「創世記」を学んでいます。

場所：成城ホール会議室（成城学園前駅）もしくは「多目的貸しスペース中根クラブ」（都立大学駅）

連絡先：西村敏樹

○『塚本虎二著作集』読書会

毎月第 1 水曜日 10 時半から、今井館第 1 集会室で、『塚本虎二著作集』第 7 巻（聖書知識社）を輪読。

5 月は 208 講、6 月は 209 講、以下 1 講ずつ。

連絡先：山田光子（2025.3 に交代）

○駒込キリスト聖書集会 主宰：荒井克浩

聖日礼拝：毎週日曜聖日 10 時～12 時

場所：今井館 第 2・3 集会室

聖書講話：「ローマの信徒への手紙」の連続講解（お願い）今井館の入り口はセキュリティがかかっているので 9 時 30 分以降に入口脇インターフォンで「203」「呼び出し」を押してください。

連絡先：荒井

HP：集会名で検索 ※ 遠隔の方 Zoom 参加可

○国立（くにたち）聖書研究会 Zoom による集会

毎月第 4 日曜日、10 時半～12 時。使徒行伝（新約）とイザヤ書（旧約）を交互に読んでいます。レポートは有志数名が交代で担当、感話は全員。出席者平均 12 名。

連絡先：加納孝代

○無教会新宿集会

毎週日曜日午前 10:00～11:45

原則として旧約聖書と新約聖書を交互に学ぶ。

会場：家庭クラブ会館（渋谷区代々木 3-20-6）

JR 新宿駅南口より徒歩 7～8 分

連絡先：島 創平

●神奈川

○キリスト教横浜集会

主のお導きのもと日曜礼拝を開催致しております。安川文朗兄には Zoom による聖書講話をお願いしております。20 名弱の少人数でございますが、主の栄光を見上げつつ、今後も集会を守って参ります。

連絡先：須川真明

●新潟

○新潟聖書研究会

新型コロナウイルス感染症が 5 類に変わっても日曜礼拝は会場（新潟市西区小針駅前前の葡萄の家）と Zoom を利用したハイブリッドで、毎日曜日午前 10 時から 12 時の日曜集会を続けています。第 1 日曜日はホセア書、第 2・3・4 日曜日はヨハネ黙示録を学んでいます。ヨハネ

黙示録は難解で、聖書を講ずる人も聞く人も四苦八苦しています。Zoom の利点は遠方からも参加できることで、熊本、静岡、石川県からの参加もあります。参加希望の方は代表の二七教会までご連絡下さい。

●北陸

○金沢畝田聖書集会

毎月第 1、第 3 日曜日 10:30～12:00

第 1 は使徒言行録を山下が担当。第 3 は崎村恒夫・広村暁が交代で担当し、聖書のメッセージを取り次ぎます。

会場：金沢勤労者プラザ（金沢市北安江 3-2-20）

連絡・問合せ先：山下士郎

●静岡

○浜松聖書集会

第 3 日曜を除いた日曜日 10～12 時

連絡先：武井陽一

会場：クリエート浜松 22 号室など

○清水聖書集会

主日礼拝：毎日曜日 10 時～11 時半

第 2 週：講話・小田弘平（元愛真高校教師）

第 4 週：講話・濱田 淳（調理師）

第 1、3、5 週：講話・西澤正文（集会代表）

※第 5 週：感話会・会食

会場：マークス・ザ・タワー

清水駅西口より徒歩 3 分 静岡市清水区辻 1-2-1

HP：「清水聖書集会」（アクセス掲載）

●中京

○名古屋聖書研究会

毎日曜日 10:00～11:30 但し第 5 日曜日休み

会場：名古屋市市政資料館

連絡先：三浦繁則

○名古屋聖書集会

毎月第 2、第 4 日曜日（10:00～12:00）

会場：名古屋市千種区猫通 2 丁目 8 番地の 15

ビレッジ猫ヶ洞 13 号

連絡先：下澤悦夫（共同世話人）

●近畿

○第 21 回近畿地区無教会キリスト集会

日時：2025 年 5 月 10 日(土)13 時～11 日(日)13 時

会場：関西セミナーハウス＊駐車場有

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

主題：「福音の希望」コロサイの信徒への手紙に学ぶ

開会礼拝：木村護郎クリストフ

主日礼拝：吉村孝雄・小舘美彦

他の企画：自己紹介・讃美のひととき・夕拝・若者の集い・早朝祈禱など

会費：全日参加 17000 円（1 泊 3 食、11 日昼食代）

部分参加 2000 円（日曜昼食 1150 円） 学生半額
会費送付：郵便振替：0980-2-246936
加入者名：宮田咲子
申込先：

締切：2025 年 3 月 31 日（月）但し過ぎても連絡下され
ば参加要項を送付します。

○233 回関西合同聖書集会

日時：2025 年 7 月 21 日（月・休）
司会：内坂晃
講師：亀谷義富「YouTube 動画を活用した福音宣教」
津崎哲雄 出エジプト記
午後：昼食懇談会・読書会
問合先は津崎

●中国

○岡山聖書集会

礼拝（第 2、第 4 日曜 10 時 30 分～12 時）（マタイ福音
書を学んでいます）
場所：岡山禁酒会館 2 階集会室（岡山市北区丸の内 1-1-
15）、希望があればオンラインでの集会参加も可能です。
代表者・連絡先 香西信
信仰のみ（Sola fide）に立ち、聖書を丁寧に学んでいま
す。また聖書講話をもとにした「マラナ・タ」（月刊誌）
を発行しています。
講読希望の方は香西宛にご連絡下さい。

●四国

○愛媛

日時：毎週日曜日 10:00～12:00
場所：松山市民会館
代表者：小笠原 明 参加者は 2～4 名

○高知

日時：毎週日曜日 10:10～11:30
場所：高知県婦人会館
代表者：片岡典子、参加者は 5 名

○徳島

① 主日礼拝

日時：毎週日曜日 10:30～12:30
場所：徳島聖書キリスト集会場 代表：吉村孝雄
参加者：約 60 名（集会場に 10 名、県内外のオンライン、
〔スカイプ〕参加者、約 50 名）

② 夕拝（スカイプによるオンライン集会）

日時：毎月第 1、第 3 火曜日 19:30～21:00
参加者：12～15 名

《家庭集会》

③ 天寶堂集会

日時：毎月第 3 金曜日 20:00～21:30
場所：天寶堂（はり治療院）徳島市応神町
責任者：綱野悦子
参加者：10 数名（会場参加とオンライン参加）

④ 海陽集会（オンライン）

日時：毎月第 2 火曜日 10:00～12:00
場所：讃美堂（数度宅鍼灸治療院）海部郡海陽町
責任者：数度勝茂（すどうかつしげ）
参加者：10 数名

⑤ 北島集会（毎月 2 回）

日時：毎月第 4 火曜日 13:00～14:30
場所：戸川宅（板野郡北島町）
責任者：戸川恭子
参加者：8～10 名（オンラインのみ）
毎月第 2 月曜日 1 時～2 時半（録音による学び）

●九州

○福岡聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12 時
会場：アクロス福岡（福岡市中央区天神 1-1）
ほか、Zoom 同時配信
連絡先：秀村弦一郎

○福岡聖書研究会・特別集会

いずれも会場はアクロス福岡（Zoom 同時配信）

① 小林孝吉氏を迎えての集会

日時：5 月 25 日（日）10～12 時
講話：「救済の風景」創世記 3：8～9

② 香西信氏を迎えての集会（講話未定）

日時：6 月 29 日（日）10～12 時

③ 月本昭男氏を Zoom で迎える集会（講話未定）

日時：7 月 27 日（日）10 時～12 時

○福岡夏季聖書セミナー2025

日時：8 月 2 日（土）13 時～3 日（日）12 時
会場：アクロス福岡（Zoom 同時配信）
講師：友寄隆静氏（那覇聖書研究会）ほか
講話：「生きて働く神」、「子供の祝福」ほか
主催：福岡聖書研究会
連絡先：秀村弦一郎
後援：キリスト教独立伝道会

○別府聖書研究会・定例集会

礼拝：毎週日曜日 10～12 時
会場：北的ヶ浜公民館（別府市北的ヶ浜町 3-35）
連絡先：中村陽一

○那覇聖書研究会

毎月第 1 と第 3 日曜日 10:15～13:00 に集会をしてい
ます。
・5 月 18 日の聖書講話は武井陽一兄（浜松聖書集
会）
・10 月 19 日の聖書講話は木村クリストフ氏
会場：那覇市安謝の環路。連絡先：友寄隆静
・2025 年の運営委員は、永山盛信、金城孝次、宮城
さゆり、糸数英子です。

事務局便り

- DVD 版内村鑑三全集(2001 年版岩波全集に基づく)の、当初価格半額 30,000 円での頒布を、今井館が窓口となって取次ぎますので、この機会に、今井館までお申し込みください。64 ビット OS 対応の CDROM も含まれており(無償)、最新 Windows の PC でのご利用が可能です。すでに DVD 版を購入済みの場合は上記 CDROM を 1,000 円で頒布します。今後のサポートのご相談も承ります。詳細は今井館教友会 304kyoyu@imaikankyoyukai.or.jp までお問い合わせ下さい。
- 今井館に矢内原忠雄に関する膨大な資料があることが毎日新聞紙上で三回にわたり大きく報じられました。第一回は 2024 年 12 月 28 日付け朝刊の全国版に載ったもので、日中戦争時に当時の政策を批判したため東京帝国大学教授の職を失った矢内原忠雄を「非戦の元東大学長」と紹介しました。さらにその記事では、目黒区中根から文京区本駒込に移転したときに発見された段ボール箱内の資料が 18,000 件に上ること、そのうち 10,000 件以上が「未発表」であるとして、今井館の矢内原関係資料がいかに貴重であることを強調しています。『今井館ニュース』61 号(本号)にも藤田豊氏による関連記事が掲載されているのでご参照ください。
- いわば飛び込みで取材に来られた毎日新聞社長野支局の S 記者は、最初は山などの自然資源と人間の歴史・文化に着目して、富士山を愛した矢内原忠雄について調べ出したとのこと。その過程で山中湖畔での矢内原の聖書講習会の資料を追ううちに今井館の存在を知って、来館。そこで膨大な矢内原関係資料を調査・研究中であった今井館常務理事の藤田さんに出会い、多くの質問を投げかけ、藤田さんからはそれに数倍する教示を得て、三回分もの新聞記事に結実させました。矢内原忠雄の講演の膨大な筆記を残した忠実な速記者靱山民子さんについても詳しい紹介がありました。
- 二つ目の記事は 2025 年 1 月 30 日付け毎日新聞長野版に掲載されたもので、「国民は生まれ変わらねば」と、矢内原忠雄が太平洋戦争敗戦後の日本人に向かって呼びかけたことが記されています。三つ目はその数日後の 2 月 3 日、同じく長野版に「愛した富士 響く砲声」と題する記事です。神の創造になる美しい富士の裾野が米軍、そして自衛隊の演習場となったことを矢内原が嘆き、「日本全土から砲声を絶て、世界全土から戦争の練習を止ましめよ」と言ったことが書かれています。
- キリスト教や無教会という接点がとくにない場合でも、人が何らかの関心によって「資料館」に導かれることがあること、そこで「偶然」にも見える出会いがあれば、数十年、あるいはそれ以上も前の先達の言葉に触れることがあること、そうするとその言葉は再びいのちをもって甦ることがあるのでしょう。そう思わせるような一連のできごとでした。また内村鑑三とそれに連なる人々の思想と活動の資料の保存を目指す今井館教友会の役割のヒントともなる経験でした。

(以上加納孝代記)
- 訃報
柳父圀近(やぎゅう くにか)氏が 2025 年 2 月 18 日に召天されました。79 歳でした。葬儀は佐藤司郎氏司式のもとに執り行われました。東北大学名誉教授であり、研究分野はマックス・ウェーバーなどを中心に西洋政治思想における政治と宗教の関係から、無教会及び日本プロテスタンティズムの政治思想まで、多岐にわたります。『内村鑑三研究』編集委員としても長く尽力されました。

維持会員募集のお知らせ

NPO 法人今井館教友会では会の趣旨にご賛同の方の入会を随時受け付けております。今井館教友会は、維持会員の会費と寄付金によって運営されております。内村鑑三および彼に連なる人々の遺したものを通じ世のために役立つ事を願いつつ鋭意努力を重ねています。2021 年今井館は文京区本駒込へ移転し、財政的にはより安定化しましたが、なおも皆さまのご支援を必要としており、経済的・精神的なお支えを願うものです。この『今井館ニュース』は会員でない方にもお送りしておりますが、ご覧になって本会の活動にご賛同の方にはぜひ維持会員にお加わり頂きたいとお願い申し上げます。

もしも、『今井館ニュース』をご不要ないようでしたらお手数ですがお知らせください。

■会員の特典

1. 今井館資料館の図書・雑誌の貸出サービスをご利用いただけます。

(1) 宅配便業者との提携による「メール便」を利用しています（ただし送料は利用者負担でお願いいたします）。

(2) 蔵書の検索につきましては今井館教友会のホームページの「図書検索」をご利用ください。

(3) 雑誌・図書の一部をコピーしてお送りするサービスにも応じております。

(4) 詳細は事務局にお問い合わせください。

2. 『今井館ニュース』（年 3 回発行）の受領。

■会費

次の 2 通りを準備しています。

1. 会員のゆうちょ銀行口座より毎月 27 日に自動的に振り込んでいただく方法。

X 会員 1,500 円（月額）（年額 1 万 8 千円）

Y 会員 2,000 円（月額）（年額 2 万 4 千円）

Z 会員 3,000 円（月額）（年額 3 万 6 千円）

T 会員 任意（月額）

※ゆうちょ銀行の口座をお持ちでない方は口座をお作り頂く必要があります。事務局より必要書類一式をお送りしますので、ご連絡をお願いいたします。

2. ゆうちょ銀行の振込による年 1 回納入

A 会員 年会費 1 万円、B 会員 年会費 5 千円、S 会員 年会費 任意

■お申し込み

事務局にご連絡をお願いいたします。申込書（ハガキ）をお送りしますのでご記入の上ご返送ください。

「今井館ニュース」第 61 号 2025 年 4 月 30 日

（年 3 回発行 4 月、7 月、11 月）

発行人：特定非営利活動法人今井館教友会

理事長 加納孝代、副理事長 川中子義勝

編集人：志知道子、玉井慎一、矢田部千佳子、
山下明

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-11-15

Tel&Fax：03-6277-5669

メールアドレス 304kyoyu@imaikankyoyukai.or.jp

ホームページ <https://www.imaikankyoyukai.or.jp>

郵便振替口座 00170-2-83102

加入者名 特定非営利活動法人今井館教友会

編集後記

今号は、杉山さんの巻頭言を始めとして、期せずして、芸術の香り豊かな号となりました。バッハの時代の音楽（バロック）を奏でるチェンバロが今井館に導入されるなど、思っても見なかった方がいらっしゃるのではないのでしょうか。また、2 ページの白薔薇と、下のハナミズキのカットは、福岡聖書研究会の秀村弦一郎さんの作品です。

無教会の仲間の中に、多才なアーティストがいらっしゃることを知り、とても豊かな心持ちがしています。皆さま、夏の前の、素晴らしい春をご堪能ください。（C.Y.）

